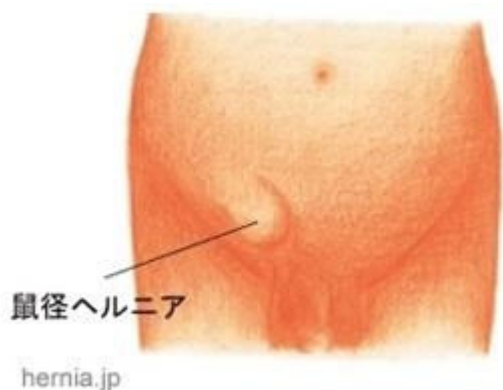


鼠径(そけい)ヘルニア（脱腸）とは？

～子どもの病気と思われがちだが、実は成人に多い！

「鼠径（そけい）」部とは、太もももしくは、足のつけねの部分のことをいい、「ヘルニア」とは、体の組織が正しい位置からはみ出した状態をいいます。「鼠 径ヘルニア」とは、本来ならお腹の中にあるはずの腹膜や腸の一部が、多くの場合、鼠径部の筋膜の間から皮膚の下に出てくる下腹部の病気です。一般の方には「脱腸」と呼ばれている病気です。



症状～放っておくと、腹痛や吐き気などの症状が出て緊急手術が必要なことも

立ったり、お腹に力を入れたとき、足のつけね（鼠蹊部）の皮膚の下に腸の一部などが出てきてやわらかい腫れができます。指で押さえると通常は引っ込みますが、小腸などの臓器が出てくるようになると不快感や痛みも感じるようになります。腫れが急に硬くなったり、腫れた部分を抑えても引っ込まなくなることもあり、腹痛や吐き気などの症状が出てくると、緊急手術が必要になる場合もあります。

治療方法

手術以外の根治療法はありません。

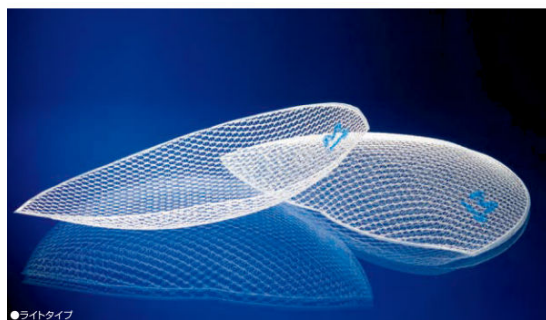
ヘルニアは良性の病気です。

でも、お薬を飲んで治すことはできません。手術でヘルニアの穴をふさがなくては治ることはありません。

当院では、腹腔鏡を使い、痛みも少なく短期入院での手術を積極的に行っています。

不快感の出現など生活の質を考えると、早期の治療をお勧めします。

下図のようなメッシュで、ヘルニアの出口を塞ぐ方法が一般的です。



●ライトタイプ

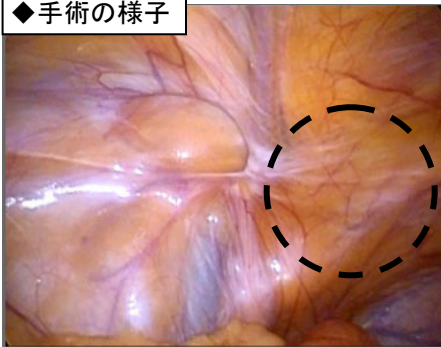
腹腔鏡下ヘルニア修復術（腹腔内到達法 TAPP 法）

腹腔内から鼠径ヘルニアを修復する手術です。腹腔内からヘルニアを確認することで見落としがなく、鼠径部を直接切開しないことで感染リスク・術後の痛みが少ないことが利点です。

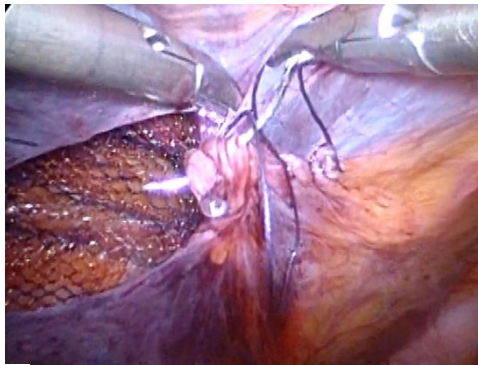
当院では、TAPP（経腹腔内腹膜前アプローチ）法を導入しています。

詳しくは、外来にてご相談ください。

◆手術の様子



腹腔内から見たヘルニアの穴



メッシュを入れて穴をふさぎます



腹腔鏡下ヘルニア修復術後の皮膚切開創

